

# フッ化物洗口濃度誤る

鹿屋の小学校  
2人気分不良

鹿屋市内の小学校が、虫歯予防のフッ化物洗口で児童約120人に通常の4倍の濃度でうがいをさせたことが16日分かった。女児

2人が、のどの違和感や気分不良を訴えたが、健康被害はなかった。

フッ化ナトリウムを含む洗口液で定期的にうがいをすると、歯のエナメル質を保護し、虫歯予防に効果があるとされる。同校によると、5月下旬の洗口で液の味の違いに気付い

た児童が担任に報告。学校側は全員に液をはき出させ、水で口をゆすがせた。

通常、複数の担当者が液を作っているが、

今回は2人とも菓包の容量確認を怠った。学校歯科医から指示された濃度でなく、液には1人当たり通常の9ミリを上回るフッ化ナトリウム36ミリ相当が含まれていた。

市教育委員会によると、仮に飲み込んで健康被害が出ないと言われる量という。同校は

保護者に文書で説明し謝罪。市教委は今回の件を検証し、各校を指導した。担当者は「ミスは遺憾で申し訳ない。作業確認の徹底など改善を図り、虫歯予防のため継続したい」と述べた。

フッ化物洗口は希望者が対象。県教育委員会によると、鹿屋市のほかに取り組んでいるのは薩摩川内、霧島、奄美、長島、さつま、湧水、大崎、十島の8市町村（4月時点）。